

検定受付時と検定時に頻繁に判明するミスの事例

8/1/2019 現在

	事例	具体例・対応例	
1	ファイル構成不良	提出時にBORINGフォルダ内の事前確認が行われていないと思われます。	
2	単純なもれや抜け(全体)	発注者名、業務名、会社名、担当者名、メールアドレスに抜けや誤字あり。(社名：省略不可 例：(株)×)	
		特記仕様書記載事項とXMLデータ(柱状図)が一致しない。	
		特に発注者指定の位置図または、平面図、そして、特記仕様書など XMLデータの照合対象が無い。	
3	検定データ送信済みの確認不足	データが本部事務局に届いていない場合あり、送信時にはメッセージの確認が必要です。	
4	振込入金における不備	やむを得ず個人名での振込時、詳細(検定受付基本データ)に社名等の補記が必要です。	
		個人名では、受付確定が困難なため、会社名も必要です。確認に時間がかかり、受付が遅れてしまうことがあります。	
5	外部公開〔詳細〕：公開の可否を明記	XMLデータの非公開はフラグ：0とその理由が必要です。/ バージョン3.00の場合は、詳細(検定受付基本データ)に可否、非公開理由を明記する。	
6	港湾確認もれ	港湾業務ではないのに「港湾空港部局及び漁港」が詳細(検定受付基本データ)に入っている。	
7	受付 検定データ送信時(送信したが、受付証明が発行されない)	検定データ送信=受付ではないので、受付証明はこの時点では発行されません。	
		まず、仮登録され、本部事務局においてデータに不備が無く、振込入金確認も取れますと受付証明が発行されます。不備がありますと事務局より、担当者宛にメール送信されます。ポーリングデータ送信後は、その後の事務局からのメールに注意が必要です。	
8	資格 ポーリング責任者 氏名誤り、地質調査技師の資格番号抜け等	資格の有効期限に間違い多し。(資格は年度末(3月)まで) (例) 期限：2019年度 → 2020年3月	
		BED.XMLの管理技術者(主任技術者)が有資格者であり、かつポーリング責任者は地質調査技師の資格を有している場合に限りA検定とする。	
		詳細(検定受付基本データ)のポーリング責任者がいずれの柱状図(BED.XML)の責任者とも異なっている。一致しない。	
		XMLに資格番号の記入漏れ、誤り。氏名の誤記、字体相違(該当者の証明の確認をお願いします。)	
9	A検定かB検定か?	1業務に複数本ある場合、ポーリング責任者に有資格者、無資格者が混在する場合、1本でも有資格者である場合はA検定とする	
10	XMLデータ使用不可文字あり	環境依存文字、半角カタカナおよび全角英数は使用できない	
11	会社名(検定受付基本データ：詳細)	原則元請けした会社名です。(受注した会社名)	
12	データ無しまたはデータ不足	フォルダ、ファイル構成が不良。	
		フォルダやファイルはあるが中身が無いなど(BED.XML、STB.XML、PDF等)、あるいは不要なデータファイルが入っているなど。また、XMLとPDFが不一致の場合もあり。	
13	バージョン(ポーリング情報DTD)	バージョン4.00が基本、3.00では国交省納品不可となった例もあり。	
		ポーリングBED と土質試験STBのバージョンは高い方に合わせる。	
14	測地系が揃っていない	ポーリングBED と土質試験STBの測地系は、統一及び一致 例) (BED)01で(STB)02や、BEDで混在も不可、00は受付不可。	
15	ポーリング位置	発注者の指定位置と実際のポーリングデータの位置が合わない。(発注者の指定位置図添付もれで、指定位置の照合ができない等も)	
16	ポーリングの検定対象	検定対象は機械ポーリングに限る。(ハンドオーガポーリングは対象外)	
17	同一孔/BED.XMLとSTB.XML	同一孔で行われたBED.XMLとSTB.XMLの測量情報は一致していなければならない。	
18	孔口標高	BED.XMLの孔口標高はT.P.表記でなければならない。	
19	禁則文字	禁則文字が使用されている。特に単位	